

ポスター | 1-07 カテーテル治療

ポスター

カテーテル治療⑤

座長:佐川 浩一 (福岡市立こども病院)

Sat. Jul 18, 2015 10:50 AM - 11:38 AM ポスター会場 (1F オリオン A+B)

III-P-031~III-P-038

所属正式名称: 佐川浩一(福岡市立こども病院 循環器科)

[III-P-034]Clippingをした人工血管への balloon dilationによる declipping

○中野 智¹, 那須 友里恵¹, 早田 航¹, 高橋 信¹, 小山 耕太郎¹, 岩瀬 友幸², 小泉 淳一², 猪飼 秋夫² (1.岩手医科大学附属病院 小児科, 2.岩手医科大学附属病院 心臓血管外科)

Keywords:BT shunt, clipping, PTA

【背景】 mBTsや RV-PA shuntは術後早期の肺血流過多による心不全と、術後遠隔期の過度の低酸素血症を避ける必要がある。しかし、人工血管のサイズや吻合部位だけでは肺血流量の調整が困難な場合があり、人工血管に対する clippingは有効な手段の一つである。当院では shunt手術時に遠隔期の balloon dilationによる declippingを前提として clippingを行っている。今回、肺血流量の増加を目的とし balloon dilationによる declippingを施行した3症例を報告する。

【対象】 症例1: Ebstein's anomaly。出生体重が2244gで生後1日に Starnes手術を施行したが、3mm graftでも肺血流過多と判断し clippingを併用の mBTsを施行した。生後2か月時に balloon dilationによる declippingを施行し SpO₂は75%から80%に改善した。その後、生後6か月時まで待機して両方向性グレン手術を施行した。

症例2: PA、VSD、MAPCA、severe AR。生後2か月時に AVPと unifocalizationに加え、clippingを併用の5mm graftで RV-PA shuntを施行した。外来で SpO₂の低下を認めたため、生後9か月時に balloon dilationによる declippingと左肺動脈狭窄に対する PTAを施行し SpO₂は85%から90%に改善した。現在、根治手術を待機中である。

症例3: PA、VSD、MAPCA。生後10か月時に unifocalizationと clippingを併用の5mm graftで mBTsを施行した。体重増加不良と SpO₂の低下を認めたため、1歳3か月時に balloon dilationによる declippingと左肺動脈狭窄に対する PTAを施行し SpO₂は75%から80%に改善した。現在、根治手術を待機中である。

【考察】人工血管に対する clippingと balloon dilationによる declippingにより肺血流を調整することができ、より安全で長期的な血行動態の安定化と至適手術時期を計画できる。